

新たな財源としての スポーツベットについて

2021年1月26日

株式会社ミクシィ
代表取締役社長
木村 弘毅

今日から、
スポーツベットの話をしよう

スポーツベットの話をすべき理由

1. 米国：合法化でスポーツ産業が拡大
2. 徹底したDX化で「不安」を解消
3. 日本のスポーツベット市場はポテンシャルあり

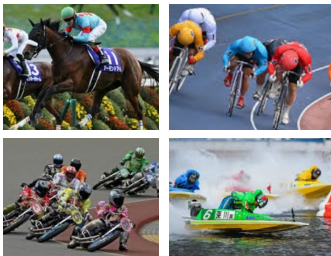
スポーツベットの話をすべき理由

1. 米国：合法化でスポーツ産業が拡大
2. 徹底したDX化で「不安」を解消
3. 日本のスポーツベット市場はポテンシャルあり

(前提) 世界のスポーツベット

「スポーツベット」とは、スポーツやレースに対し行うギャンブル
米国は、他欧州諸国等と同じく他スポーツも合法化へ



合法スポーツベット	レース 競技			ドッグレース等も。 
	スポーツ	非合法 (toto/BIG除く)	2018年から 順次合法化	プロスポーツ等 多く合法 

1-1：違憲判決で州毎の合法化が実現

米国では、元来ネバダなどを除きスポーツベットは違法だった。2018年のプロ・アマスポーツ保護法(PASPA)違憲判断の後、州毎に合法化の流れに

1992年

法律の
動き

プロ・アマスポーツ保護法
(PASPA)制定
ネバダ等一部を除きスポーツ
ベット禁止(競馬は除く)

ファンタジースポーツ(※)
という実質的なギャンブル
ゲームが繁栄

スポーツ
ベット業界
の実態

2018年5月

連邦政府が州自治を制限
するのは憲法違反として
PASPA廃止

各州で合法化開始。州跨ぎ
のベットは不可

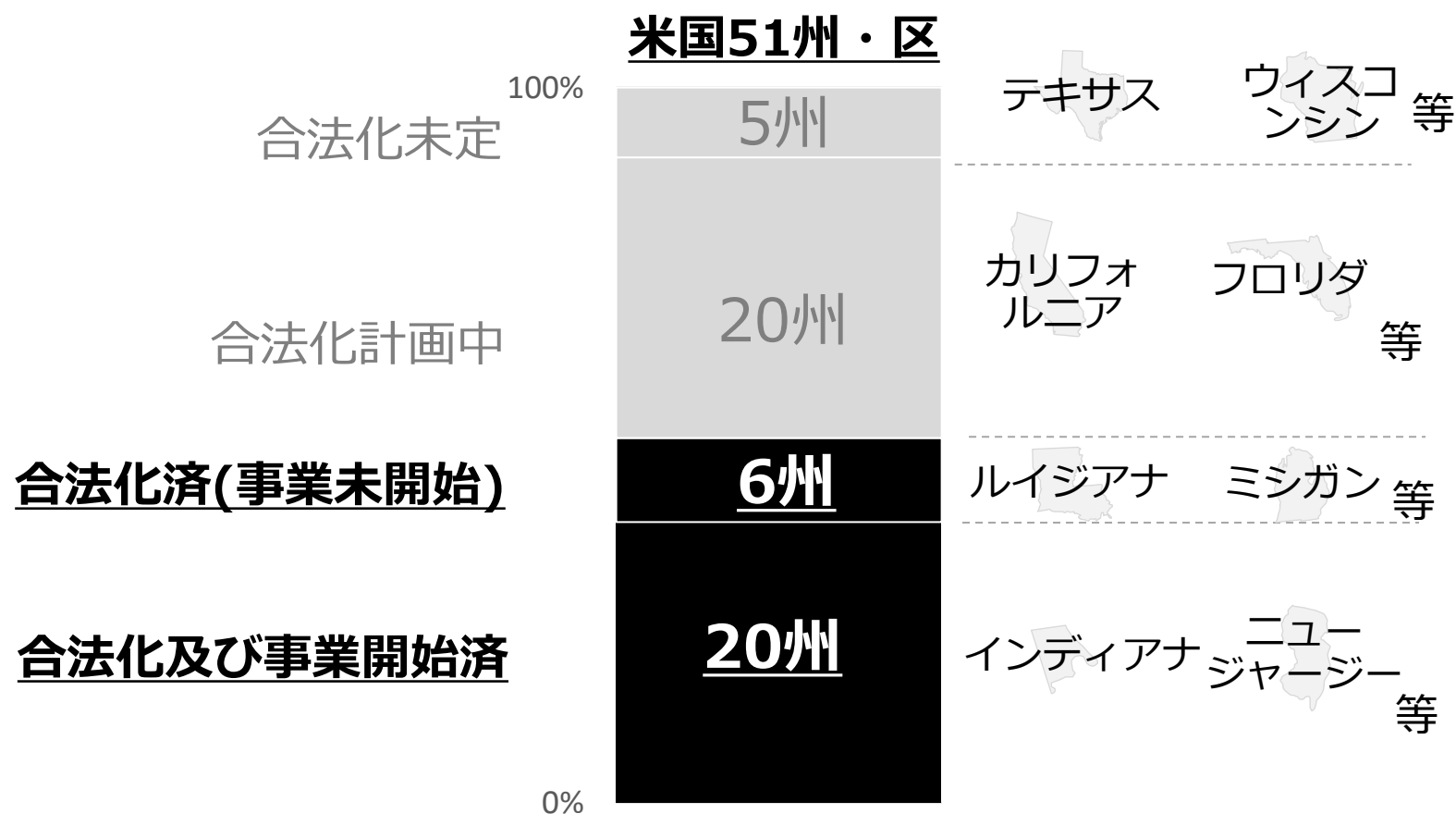


※実在の選手を編成してチームを作り、各選手の実際の成績の合計点で勝負し、勝者は賞金を獲得

1-1：違憲判決で州毎の合法化が実現

2020年11月現在、26/51州で合法化が進んでいる

州別のベット合法化状況(2020/11/11)

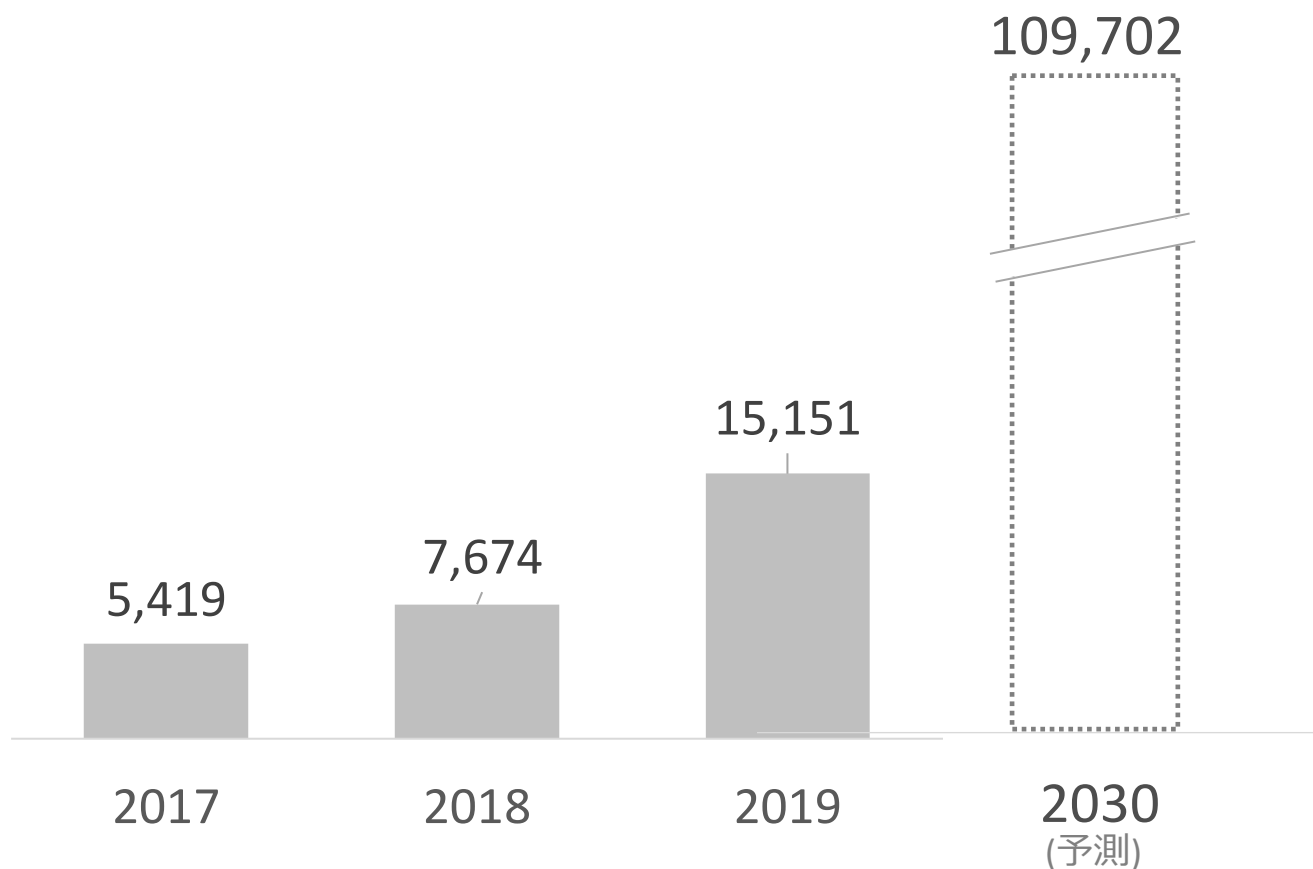


*2020/11/11時点における合法化進展状況。オンライン/リテール(場)それぞれ合法化状況が異なる場合があるが、どちらか一方でも合法化されていれば、動きがあることから「合法化済」ステータスとしている

1-2 : 市場の成長

市場規模は、2030年におよそ11兆円とも予測されている

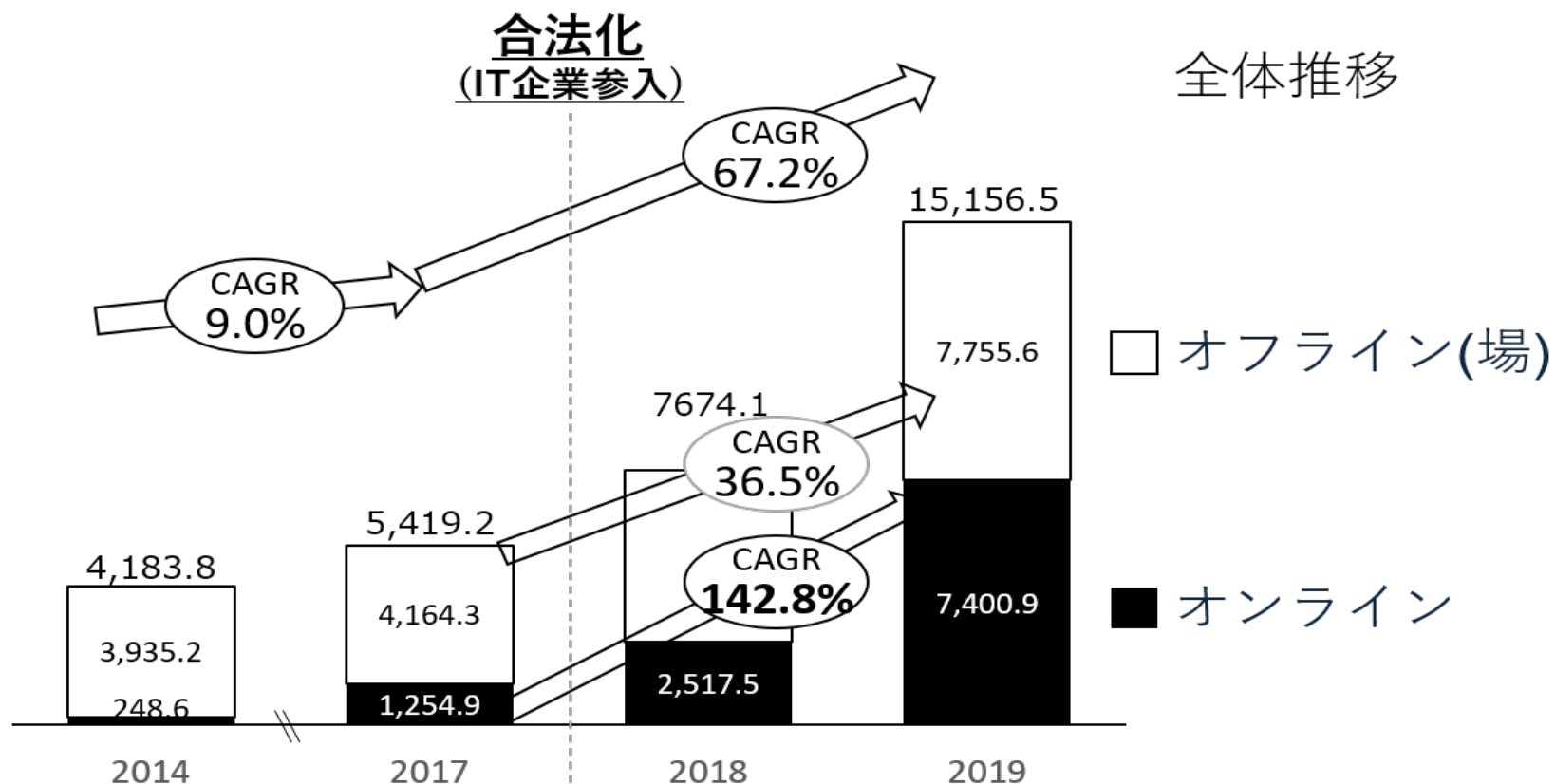
米国スポーツベット市場売上額推移(億円)



1-3 : オンラインベットが牽引

合法化後オンラインベット市場の成長が、市場全体の成長を牽引

米国スポーツベッティング オンライン比率の推移(億円)



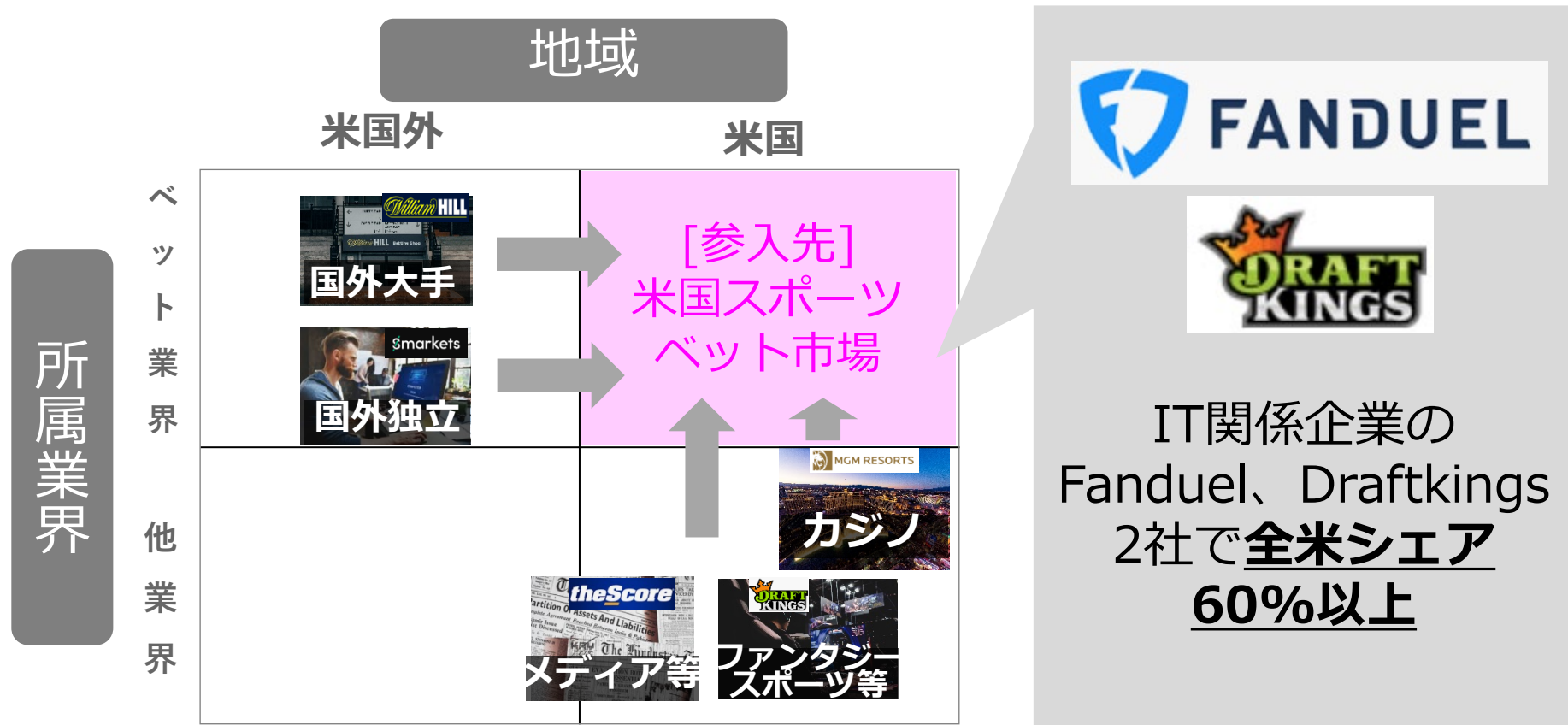
参考: H2 Gambling Capital

CAGR=Compound Annual Growth Rate : 年平均成長率

1-4 : 多様な事業者が参入

合法化により、各国・他業界から事業者が参入し競争

ベット市場開放後の参入動向



1-5 : 政府の財政にも貢献

政府は、スポーツベット合法化から「わずか2年」で「200億円以上」の
税収を得た

合法化後の税収内訳(2018/5-2020/5の2年間)

\$224.5M

(約247億円。年平均123.5億円)

63.82 28.4%	ニュージャージー州
62.62 27.9%	ペンシルバニア州
40.50 18.0%	ネバダ州
22.25 9.9%	デラウェア州
35.31 15.7%	他の州

1-6 : スポーツ産業への好循環例 (データ)

スポーツリーグがベット事業者と提携し、高付加価値な公式データを提供する代わりに、公式スポンサー契約を提携している

スポーツリーグ
(ベットコンテンツ)

データ
プロバイダ

バックエンド
システム開発

ベット事業者



概要

ベット対象に
なる競技

スポーツリーグ
からデータを
購入し販売

オッズや決済/
コンプラ/セキュ
リティ等開発

ユーザ接点の
サービス運営/
マーケ等

付加価値
提供

より高付加価値な公式データ提供
Win-winな公式スポンサー契約等

(参考) スポーツベットオペレーター上位の会社のスポンサード状況

Draft Kingsのスポーツ団体へのスポンサード一覧

年	スポンサード先	チーム名等
2020	NHL	ナッシュビル・プレデターズ
2020	NBA	デトロイト・ピストンズ
2020	NFL	フィラデルフィア・イーグルス
2020	MLB	コロラド・ロッキーズ
2020	NFL	ニューヨーク・ジャイアンツ
2020	MLB	シカゴ・カブス
2020	PGA Tour	ー (ツアー単位)
2020	NBA	フィラデルフィア・76ers
2020	NBA	インディアナ・ペイサーズ
2020	XFL	ー (リーグ単位)
2020	NBA	ニューヨーク・ニックス
2020	NHL	ニューヨーク・レンジャーズ
2019	NBA	ー (リーグ単位)
2019	MLB	ー (リーグ単位)

- Draft Kings: **14団体**
- BetMGM: 12団体
- PointsBet: 8団体
- FanDuel: 6団体

1-6 : スポーツ産業への好循環例（アリーナ）

アリーナの観戦体験の向上にも関わる事例が出てきている



アリーナにベットラウンジを設置する提携



- 2020/9/23、NHLのペンギンズとベット事業者BETRIVERSは、アリーナにベッティングブース「BetRiversラウンジ」を建設する提携を発表。マーケティング面でも提携(リーグがロゴや広告枠等提供)
- コロナ後に、安全でより洗練された体験を提供するとのこと



*全て建設イメージ

コロナ後の集客にベッティングを活用
数例同様の提携事例が存在

1-6 : スポーツ産業への好循環例（教育）

Pointsbetはコロラド大学と提携し、ベットデータ提供を対価に、コロナ禍の奨学金やキャリア支援提供

コロナ禍の学生支援を行い、公式スポーツ
データ提供を受けるパートナーシップ



- 2020/9/8、コロラド大学のコロラドバッファローズ(アメフト等を中心とするスポーツ団体)とベット事業者PointsBetが提携
- コロナにより苦しむ大学やその生徒に向け、財政/奨学金支援やキャリアプログラム等を提供

スポーツベットの話をするべき理由

1. 米国：合法化でスポーツ産業が拡大
2. 徹底したDX化で「不安」を解消
3. 日本のスポーツベット市場はポテンシャルあり

2-1 : IT技術で違法市場を淘汰

資金トレーサビリティの向上が課題を解決し、違法市場を淘汰

違法市場蔓延による課題

- 海外への資金流出
- 反社勢力への資金還流が追えず
- 税金逃れの機会創出



スポーツベット合法化

徹底したDXによる
資金トレーサビリティ向上で
課題解決

違法市場を淘汰

2-2：依存症対策などにも有効

オンラインでのスポーツベットは、依存症対策や不正対策などの顧客保護につながる



米国のオンライン
スポーツベット事業者

身分確認の際には、姓名、住所、生年月日、社会保障番号、ユーザーの位置情報を確認

ユーザーが自分でデポジット、限度額を設定するセーフガードを提供

ユーザーは取引履歴から、全勝敗、プレイの概要など、全てのベットに関して詳細情報を確認できる

スポーツベットの話をするべき理由

1. 米国：合法化でスポーツ産業が拡大
2. 徹底したDX化で「不安」を解消
3. 日本のスポーツベット市場はポテンシャルあり

3-1：賭け式の違い

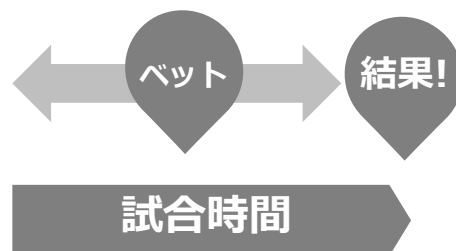
米国では試合中いつでも、何回も賭けられる方式が人気となっている

ベッティング方式分類(タイミング別)

試合前に賭ける
(日本と同じ)



試合中
試合結果をベット



試合中
次の事象にベット



バスケのA選手は2分以内に3p決める？

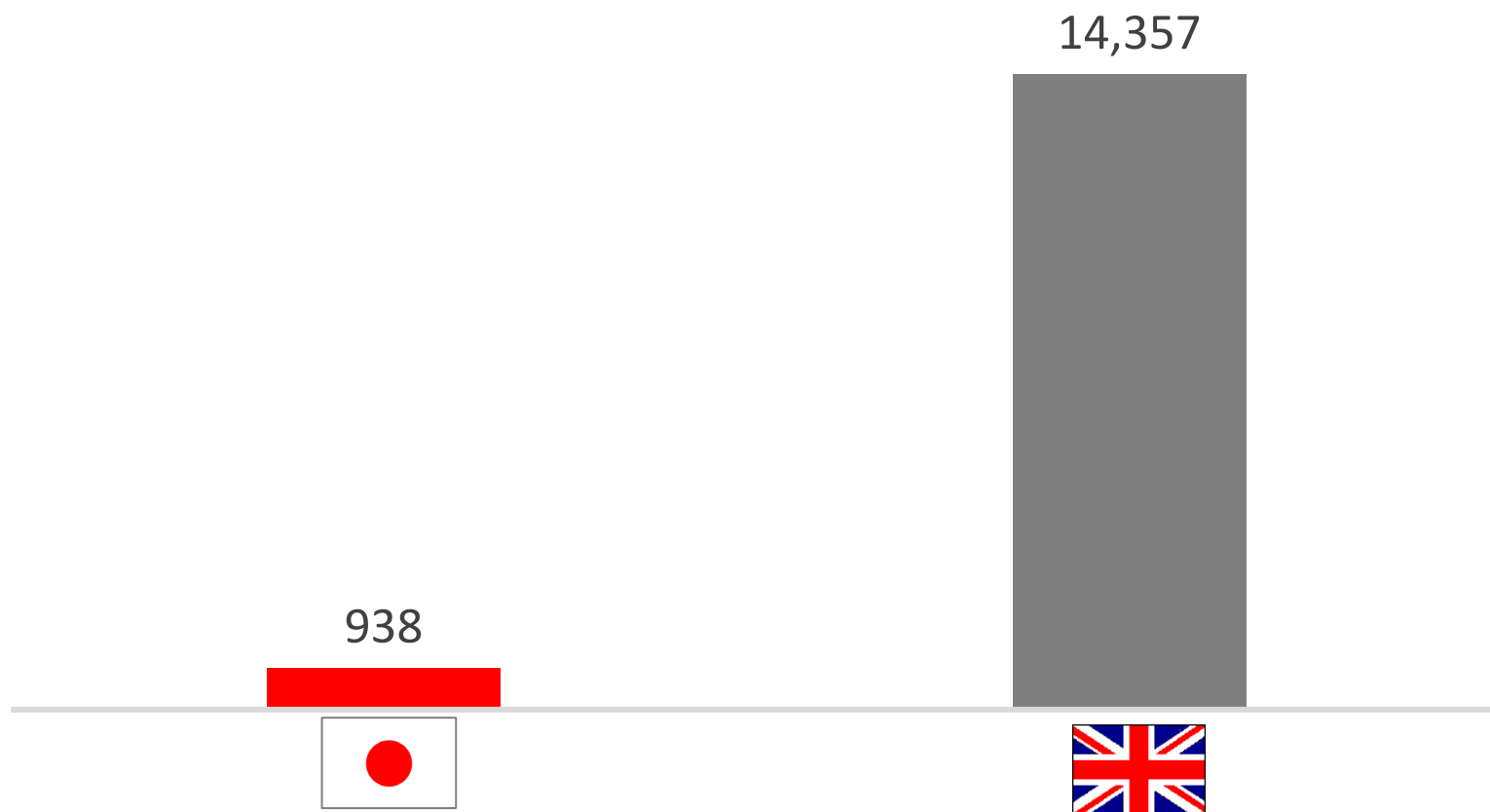


テニスのB選手は次のゲームでサービスエース取る？

3-2 : 海外との差

サッカーを対象とするベットの売上額でも、英国に大きく差をつけてられている

2019年売上額比較(単位:億円)



3-3：日本におけるスポーツベット市場

払戻率・販売頻度を上げれば、十分市場として成長することができる

	スポーツ振興くじ	公営競技 (競馬、競艇、競輪、オート)
目的	スポーツの振興	関連事業の振興、 公益の増進、財政の健全化
売上	<u>938億円</u> (2019年度)	約5.8兆円 (2019年又は年度)
払戻率	<u>50%</u>	70～80%
販売頻度	<u>週1～2回</u>	複数場にて複数レースを ほぼ毎日開催
主体	独立行政法人 日本スポーツ振興センター	地方自治体 (中央競馬はJRA)
販売方法	民間委託が可能	民間委託が可能

今日から、 スポーツベットの話をしよう

1. 米国：合法化でスポーツ産業が拡大
2. 徹底したDX化で「不安」を解消
3. 日本のスポーツベット市場はポテンシャルあり